

日本文化の結晶

政府は、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類に移行するのに合わせ、先月の29日より「水際対策」の措置を終了させました。これにより、2022年の10月から行っていた入国者の制限や、個人旅行の禁止などが緩和されることになりました。内外観光客の数が大幅に増えると同時に、インバウンド（訪日外国人）による各種の需要が元の水準に回復するという期待が持たれるところです。但し、インバウンドの需要においては、かつての「爆買い」から、



「日本文化」への関心（需要）が高まり、大きな変化がみられるようです。そこで注目されるのは、日本の食文化・桜や富士山などの自然景観・治安の良さといった安全性・交通アクセスの利便性・神社や和風庭園など日本の伝統・アニメ・漫画などの関連需要だそうです。ということは、日本の花鳥風月や日本人の気質といった「ありのままの日本」が最大の「観光資源」ということではないのでしょうか。いうまでもなく、「日本はとても清潔な国」だということは海外でも定評がありました。私たちにとっては、ごく当たり前の光景…「街にゴミが落ちていなく美しい」ことや、「清潔で快適なトイレが至る所にあり、それも無料で使用できる」ことに感動する外国人観光客は少なくないようです。そういえば、先頃のWBC（第5回ワールド・ベースボール・クラシック）決勝で、日本はアメリカを下し、14年ぶり3度目の世界一を達成しましたが、その健闘ぶりが称えられる一方で、ゴミ一つ落ちていない日本チームのきれいなベンチにも注目が集まっていました。（スポーツドリンク用の紙コップやヒマワリの種の殻、ガムの包み紙などのゴミで散らかし放題のアメリカ側ベンチとは全く異なり、整然としたものでした。）そして、エンゼルスの大谷翔平選手は、二刀流のパフォーマンスだけでなく、その誠実な人柄や振る舞いも世界中のファンを魅了しているのです。高校時代から本人が意識的に取り組んできたという「ゴミ拾い活動」も、彼の人格形成に影響を及ぼしているのでしょうか…。…四死球で一塁へ歩かされる際には、バット・グローブ・プロテクターなどを丁寧にそろえてバットボーイに手渡しします。（殆んどの大リーガーは、道具を放り投げて一塁に向かいます…）球場内やバッテリーボックスでも、小さなゴミを拾うなど、さりげない一つ一つの振る舞いも魅了されるところです。これからは、彼の一挙手一投足が米球界で注目され、私たち日本人の評価をも盛り立ててくれることでしょう。



～ゴミ拾いができる人は、ゴミは捨てない！～